



**The 1st Academic Conference of Safety Psychology and Behavior for
Healthcare (1SPBH)
jointly with
The 11th World Congress of Clinical Safety (11WCCS)**

**第 1 回医療のための安全心理・安全行動学国際学術会議、
および第 11 回臨床安全世界会議の合同会議**

---医療安全の新世界への旅---

**2024 年 3 月 16 日(土)~17 日(日)
東京大学医学部キャンパス**

(英語演題⇒日本語付き、日本語演題⇒英語付き)

プログラム:日本語訳(構築中)

主催

国際医療リスクマネジメント学会 (IARMM)

後援

国際医療安全推進機構 (MSPO)

医療安全心理・行動学会 (MSSPB)

日本医療安全推進学会 (JSMSP)

MSPO 健康安全国際研究所 (HIS)

MSPO 医療安全高等教育院 (HEPMSP)

【同時開催日本語プログラム】

24年3月17日(日) 医療安全心理・行動学会「医療安全指導員研修会・実習コース」
<http://www.iarmm.org/1SPBH/opt02.pdf>

国際合同会議プログラムは以下のページから掲載。

(参加方法) 来場

PC ライブ放送

オンデマンド(録画視聴: 2024年4月1日～4月30日)

これらを組み合わせてもご利用いただけます。

目次

会場情報

日程

ご挨拶 5 人

プレミアム講演

各種団体: 5 題

国際行政機関: 2 題

基調講演

(1) 安全の哲学: 3 題

(2) 学際セッション: 2 題

(3) 臨床安全セッション: 5 題

(4) ヒューマンファクターズ: 2 題

(5) 心理・行動セッション①: 4 題

(6) 心理・行動セッション②: 4 題

シンポジウム: 意思決定と医療安全

パネル討論会

(1) 安全心理・安全行動による医療機関の安全推進

(2) 臨床リスクと安全

(3) 患者安全および医療者安全のための教育

(4) e-ヘルスと医療機関の安全推進

(5) 医療危機管理シミュレーション教育: 事故後病変の管理

(6) 医療安全とコミュニケーション

(7) 医薬品適正使用の地域ネットワーク

(8) 感染症のリスクマネジメント

ポスター発表(1)

ポスター発表(2)

【会場情報】

(医学教育研究棟)

受付	鉄門記念講堂ロビー	14 階
会場 A (挨拶、基調講演)	鉄門記念講堂	14 階
会場 B (ポスター発表)	鉄門記念講堂ロビー	14 階
会場 C (パネル討論)	第 5 セミナー室	13 階
会場 D (シンポジウム & パネル討論)	第 6 セミナー室	13 階
会場 E (パネル討論)	第 7 セミナー室	13 階
会場 F (パネル討論)	第 8 セミナー室	13 階

(医学部 2 号館本館)

会場 G (講師控室)	小講堂	1 階
-------------	-----	-----

医学部キャンパス

https://www.m.u-tokyo.ac.jp/information/map_hongoarea.html#campus

本郷キャンパス

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map01_01.html

日程

3 月 16 日(土)		
	8:30-12:00	13:30-17:00
Foyer	Registration desk	Registration desk
Space A	Greetings, Premium Lecture	Kenote Lecture
Space B	Poster display	Poster display
Space C		Panel Discussion
Space D		Symposium & Panel Discussion
Space E		Panel Discussion
Space F		Panel Discussion

ポスター掲示時間: 11:00-14:00

ポスター討論時間: 12:30-13:30

ポスター脇にて説明する

3 月 17 日(日)		
	8:30-12:00	13:30-17:00
Foyer	Registration desk	Registration desk
Space A	Premium Lecture, Keynote Lecture	Keynote Lecture
Space B	Poster display	Poster display
Space C	No use	No use
Space D	Panel Discussion	Panel Discussion
Space E	Panel Discussion	Panel Discussion
Space F	Panel Discussion	Panel Discussion

ポスター掲示時間: 11:00-14:00

ポスター討論時間: 12:30-13:30

ポスター脇にて説明する

ご挨拶

3 月 16 日

A 会場

司会: Wolfgang Gaissmaier 教授 (コンスタンツ大学、ドイツ)

四柳 宏 教授 (東京大学医科学附属研究所附属病院長)

大谷壽一 教授 (慶應義塾大学医学部教授)

9:30-9:40



武見敬三 (予定)

厚生大臣、WHO ユニバーサルヘルスカバレッジ親善大使、慶應大学医学部客員教授

9:45-9:55



アレン・バイダ

IARMM・MSPO 国際顧問、MSPO 客員教授、医薬品適用使用研究所前上級副所長、元米国 FDA 医薬品委員会顧問

10:00-10:10



田中栄

東京大学病院病院長

たなか さかえ
病院長 田中 栄

10:15-10:25



松本吉郎

日本医師会会長

10:30-9:40



武田泰生

日本病院薬剤師会会長

プレミアム講演

3月16日～17日

A会場

3月16日、A会場

司会: Strametz Reinhard 教授 (RheinMain UAS, ドイツ)

大谷壽一教授 (慶應義塾大学医学部教授)

10:45-11:25



テジャル・ガンジー

米国国立患者安全財団初代会長、
ボストン

11:30-12:00



追悼記念講演

門田守人 (故)

前 MSPO 国際顧問
前日本医学会会長

3月17日、A会場

司会: Strametz Reinhard 教授 (RheinMain UAS, ドイツ)

四柳 宏 教授 (東京大学医科学附属研究所附属病院長)

9:30-10:10



ウクライナ人道危機と危機コミュニケーション

アレキサンダー・ピボバロフ

IARMM ウクライナ学会会長 2004 年～

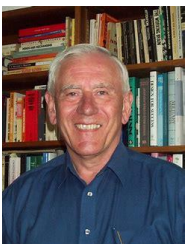
10:15-10:30



医療の安全に向けた日本医師会のこれまでの取り組み

横倉義武

MSPO 国際顧問、元世界医師会会長、
元日本医師会会長



※ オンデマンド講演のみ

ジェームズ・リーズン

マンチェスター大学心理学名誉教授、英国
スイスチーズモデルの創設者

国際行政機関

3 月 16 日 A 会場

司会: Strametz Reinhard 教授 (RheinMain UAS, ドイツ)

四柳 宏 教授 (東京大学医科学附属研究所附属病院長)

13:30-14:10 (IOG01)

Patient-Reported Indicator Survey

患者報告型の医療評価指標による調査

経済協力開発機構、パリ

14:15-14:55 (IOG02)



Addressing inequalities in healthcare Safety

医療安全における不平等について

Rajat Khosl

国連大学グローバスヘルス研究所所長、クアラルンプール

基調講演

3 月 16 日～17 日

A 会場

安全の哲学

(3月16日) A会場

司会 竹村和久教授 (早稲田大)

15:00-15:20 (KA01)



Limit of Science --- another world of safety

科学の限界 --- 安全の別の世界

酒井亮二 (本合同会議代表、IARMM・MSPO 理事長、医療安全心理・行動学会理事長、日本予防医学リスクマネジメント学会創設理事長(10年)、日本医療安全学会創設理事長(7年)・名誉フェロー、患者・家族メンタル支援学会創設理事長(1年)、日本行動医学会設立理事(6年)、日本疫学会設立提案者)

15:25-16:05 (KA02)



Beyond AI --- by pharmacotherapy aspect

AI を超えて --- 薬物治療の立場から

大谷 寿一 (MSPO 特別上級会員。慶應義塾大学医学部教授、薬剤部長)

16:10-16:50 (KA03)



Risk-Ethics: Using Collaboration to Elevate Equity

リスクと倫理： 公平性を高めるための協働の利用

Josh Hyatt (Med-IQ リスク教育部長。マサチューセッツ薬科大学非常勤教授。ハーバード大学生命倫理センター、米国)

学際セッション

3月17日 C会場

司会: Josh Hyatt 教授 (Director of Risk Education and Strategy, Med-IQ. 米国ボストン)
大澤資樹教授 (東海大学医学部教授)
Cheng-Ta, Yang 教授・学部長 (台北医科大学、台湾)

13:30-14:10 (KA04)



Safety Promotion with Resilience

レジリエンスによる安全推進

藤井聡 (MSPO 国際常任理事、医療安全心理・行動学会特別会員、京大工学部レジリエンスセンター長、教授)

14:15-14:55 (KA05)



Patient Safety Promotion Based on Patient Centered Care ---- Importance of Consumer Experience for Organization Management (tentative title)

患者中心の医療による患者安全推進 --- 組織運営における顧客の経験の重要性 (仮題)

井出野 尚 (東京理科大学経営学部教授)

(日本政府通達) 文書配信

Industrial Accident Prevention by Behavior Approach

行動アプローチによる産業事故の予防

臨床安全セッション

3月16日、D会場

司会: Josh Hyatt 教授(マサチューセッツ薬科大学、米国ボストン)

工藤 篤教授 (東京医科歯科大学医療安全管理部教授)

13:30-14:10(KA06)



Clinical Safety Strategy of Intensive & Critical Care (tentative title)

救急・集中医療での臨床安全戦略(仮)

土井研人 (MSPO 国際常任理事、日本医療安全推進学会常任理事、東大病院救急救命科教授)

14:15-14:55(KA07)



Project RED (ReEngineered Discharge)

The Standard of Care in Transitions of Care

医療施設から家庭への患者移転での安全性プロジェクト

Irving Stackpole

(President of Stackpole & Associates, Inc, USA)

15:00-15:30 (KA08)



Medical Survey System of Severe Harmful Event

医療事故調査制度 --- 日本の斬新なアプローチ

藤田真幸 (IARMM 副理事長・MSPO 国際理事、日本医療安全推進学会常任理事、慶応大学医学部法医学教授)

15:35-16:15 (KA09)



Healthcare Safe Management for Mega-Disaster (tentative title)

巨大災害に対する安全な医療管理

大友康裕 (MSPO 客員教授、国立災害医療センター病院長、東京医科歯科大学名誉教授)

16:20-17:00 (KA10)



Patient Safety Promotion with Resilience

レジリエンスによる患者安全推進

中村京太 (横浜市市立大学医療センター教授)

(ヒューマンファクターズ・セッション)

3月17日 C会場

司会 Wolfgang Gaissmaier 教授 (コンスタン大学, ドイツコンスタン市)

中田光紀 教授・学部長 (国際医療福祉大学福祉・心理学部)

10:40-11:20 (KA11)



Psychology of Traffic Safety

交通安全の心理学

篠原一光 (大阪大学心理学教授、医療安全心理・行動学会特別会員、
第2回医療安全心理・行動学会学術総会共同総会長代表)

11:25-12:05 (KA12)



Human Error in Machine Operation and its Countermeasures

機械操作におけるヒューマンエラーとその対策

下田宏 (MSPO 国際研究所上席顧問、京大工学部ヒューマンファクターズ教授)

心理・行動セッション(1)

16 March 2024, C 会場

司会: 工藤 篤教授 (東京医科歯科大学医療安全管理部教授)

Cheng-Ta, Yang 教授・学部長 (台北医学部大学、台湾)

13:30-14:10 (KA13)



Behavior Analysis for Patient Safety Promotion

患者安全推進のための行動分析

飛田伊都子(MSPO 国際理事、医療安全心理・行動学会理事、大阪医科薬科大学看護学部教授)

14:15-14:55 (KA14)



Psychosocial Safety Climate in Healthcare Sector

医療機関における心理的安全性の風土

Maureen Dollard

マウレーン・ドナルド (南オーストラリア大学教授、英国ノッティンガム大学教授)

15:00-15:40 (KA15)



Medical Ethics, Our Psychocultural-Social Tendencies, and Patient Safety

医療倫理、私たちの心理文化・社会的傾向と患者安全

浅井篤(MSPO 国際理事、医療安全心理・行動学会常任理事、東北大学医学部医療倫理教授)

15:45-16:05 (KA16)



Significance of apology when an adverse event occurs

有害事象発生時の謝罪の意義

和田仁孝

早稲田大学大学院法務研究科教授

心理・行動セッション(2)

3月17日、A会場

司会: 工藤 篤教授 (東京医科歯科大学医療安全管理部教授)

Cheng-Ta, Yang 教授・学部長 (台北医学部大学、台湾)

13:30-14:10 (KA17)



When Emotion Trumps Evidence: Challenges for the Public Understanding of Risk

感情が証拠に勝るとき: 大衆のリスク理解のための挑戦

テオルガング・ガイセメア

Wolfgang Gaissmaier (独コンスタンツ大学社会心理学教授)

14:15-14:55 (KA18)



How Organizations Make Decisions

組織はいかにして決定するか

竹村和久(IARMM 理事・MSPO 国際常任理事、医療安全心理・行動学会常任理事、早稲田大学心理学教授)

15:00-15:50 (KA19)



Risk Communication of COVID-19 and Associated Problems

COVID-19 のリスクコミュニケーションとその問題点

四柳宏 (MSPO 国際理事、日本医療安全推進学会理事長、日本感染症学会理事長、東京大学医科学研究所附属病院病院長)

15:55-16:35 (KA20)



How are Work Stress And Sleep Behavior Related to Occupational Safety And Health

職業ストレスと睡眠行動が職業安全と健康にいかに関与するか

中田光紀 (MSPO 副理事長、医療安全心理・行動学会常任理事、国際医療福祉大学 福利・心理学部学部長、教授)

シンポジウム

3月17日、C会場

15:15-16:45

Decision Making, Behavior, and Patient Safety

意思決定、行動、そして患者安全



座長: 竹村和久(IARMM・MSPO 国際常任理事, 医療安全心理・行動学会常任理事、早稲田大学心理学教授)

(SP01)

How well do doctors know and understand clinical evidence? Illustrations from decision making about cancer

医師は臨床証拠をどのようにしてより良く理解するのか? がんの意思決定からの提示

テオルガング・ガイセメア (独コンスタンツ大学社会心理学教授)

(SP02)

Interplay of Expertise, Risk Evaluation, and Probability Information in Decision-Making for Medical Images

医療画像処理における経験の動的つながり、リスク評価および確率情報

Cheng-Ta, Yang, 台北大学高等研究所医療のヒューマニティー教授、台湾

(SP03)

Medical decision makings that yield excess medical cares that damages patients' health

患者への過剰医療をもたらす医療の意思決定

藤井聡 (MSPO 国際常任理事、医療安全心理・行動学会特別会員、京大工学部レジリエンスセンター長、教授)

パネル討論会

3月16日～17日

E会場、F会場

各演題の持ち時間(15分)には2分間の質疑時間がありますので、パネルごとの総合討論は行いません。

(PD01) Safety Psychology & Safety Behavior for Healthcare Safety Promotion

安全心理・安全行動による医療機関の安全推進

座長: Reinhard Strametz 教授 (RheinMain UAS, ドイツ)

Prof. 小田克彦教授 (東北大学)

Prof. Cândida Loureiro 教授 (Nursing School of Coimbra (ESENfC), ポルトガル)

Economic Value of Peer Support Programms in Healthcare

医療におけるピアサポート(同僚支援)の経済的価値

Strametz Reinhard, Klemm Victoria, Roesner Hannah, Neusius Thomas

経済と患者安全のワイエスバーデン研究所、ワイエスバーデン、ドイツ

Survey of Medical Practitioners' Awareness of Medical Safety in Image Diagnosis

画像診断に於ける医療安全に対する一般開業医の意識調査

Jun Uehara*, Akira Chikamoto**

* MSPO 医療安全高等教育院、川越救急クリニック。 ** 熊本大学病院医療の質・安全部)

Reforming Medical Personnel Awareness and Biomonitoring during Sedated Transesophageal Echocardiography (TEE) to Reassure Examiners and Ensure Patient Safety

鎮静下経食道心エコー (TEE) における医療従事者の意識改革とバイオモニタリングによる検査者の安心と患者の安全確保

江口明世 1)2)、高橋敬子 1)2)、笹沼直樹 1)3)、真鍋恵理 2)、関庚徳 2)、石原正治 2)

1) 兵庫医科大学 医学部 医療クオリティマネジメント学

2) 兵庫医科大学 医学部 循環器・腎透析内科学

3) 兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部

A Quality Improvement Project Focused On Providing Patient-Centered Care by utilizing Patient Satisfaction Index

患者満足度指標による患者中心の医療に対する質改善プロジェクト

Duaa Javaid, Zehra Habib, Dr. Yumna Ahmed, Amna Ahmed, Karishma Iqbal

Usman Memorial Hospital, Karachi, パキスタン

Working hours and suicidal ideation among healthcare workers in Japan: a comparison with occupations

日本の医療従事者の労働時間と自殺念慮：職種との比較

Kazuki Kikunaga, Akinori Nakata, Tuskumi Tondokoro, Nobutada Yokouchi, Yukiko Inoue

国際医療福祉大学

A review of accident cases related to instrumentation in operating rooms in Japan and future issues

日本国内における手術室内での器械出し行為に関連する事故事例の検討と今後の課題

池田尚人 迫田典子

東京医療学院大学/

Misinformation measures are a management goal of medical patient safety.

ミスインフォメーション対策は医療患者安全の管理目標

星 真哉

The Izumi Home care clinic、東京

Empathy reduction and verbal overshadowing effect in medical students: A study in clinical practice.

医学生の共感低減と言語隠蔽効果: 臨床実習における検討

安心院康彦 1, 3、立澤直子 2、佐川俊世 2、金子一郎 3、三宅康史 3、森村尚登 3

1. 帝京大学医学部附属病院安全管理部

2. 帝京大学医学部総合診療科

3. 帝京大学医学部救急医学講座

Effect of difference between WAI (work-as-imagined) and WAD (work-as-done) on resilience

-Inspection using RAG (Resilience Assessment Grid)

WAI (work-as-imagined) と WAD (work-as-done) の相違がレジリエンスに与える影響

-RAG (Resilience Assessment Grid) を用いた検証-

岩尾誠也 1, 河内正治 2

1. MSPO 医療安全高等教育院

2. 帝京大学医学部附属病院安全管理部

(PD02) Clinical Risk and Safety

臨床リスクと安全

座長 Amélia Filomena Oliveira Mendes Castilho 教授 (Nursing School of Coimbra (ESENfC), ポルトガル)

浜本康夫准教授 (慶応大学医学部)

Eight key structures of cardiovascular surgical teams required for patient safety and work style reform

患者安全と働き方改革に求められる心臓血管外科チームの 8 つの構造

Oda Katsuhiko, Takahashi Makoto, Itagaki Kota, Akanuma Rina, Hasegawa Takahiko, Kawatsu Satoshi

Department of Cardiovascular Surgery, 岩手県立中央病院

The expectancy of stillbirth among inpatients of our department

当科入院患者における死産の予期

Maya Takamoto¹⁾²⁾, Hajime Oishi²⁾, Hideyo Miyazaki¹⁾

1) 医療安全とリスク管理部 2) 産婦人、国立国際医療センター、東京

Relationship between accidents in nursing homes and staff movement records using a tag monitoring system and the call-bell records

ナーシング・ホームにおける事故と呼びだしベル並びにタグモニターシステムによるスタッフの移動記録の関連性について

Hiyama Akiko

札幌市立大学

3 月 17 日午前 10 時～10 時 40 分

Injuries in Healthcare Workers during Patient Handling

医療従事者が患者を扱う際の負傷

Rammohan Maikala, PhD, ASP

Subject Matter Expert – Program Technical Consultant, 国家安全評議会, Itasca, イリノイ州、米国。

Launch and operation of the Rapid Response System (RRS) at our hospital,

-Its current status and challenges-

当病院での RRS の導入 – 現状と課題

Hisato Ikeda^{1),2)}, Daisuke Shinohara^{1),4)}, Minoru Endo^{1),4)}, Jun Sasaki^{1),3)}

- 1) Department of Hospital Qualitative management, , Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京
- 2) Department of Neurosurgery, Showa university Koto Toyosu Hospital , 東京
- 3) Department of Emergency center, Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京
- 4) Department of nursing, Showa university Koto Toyosu Hospital, J 東京

Our emergency response system to in-hospital stroke cases

入院中の脳卒中に対する私たちの救急対応

Hisato Ikeda¹⁾, Akira Wada¹⁾, Shohei Nomoto²⁾, Ayako Kuriki²⁾

- 1) Department of Neurosurgery, The center of cerebrovascular disease, Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京
- 2) Department of Neurology, The center of cerebrovascular disease, Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京

(PD03) Education of Patient Safety and Medical Personnel Safety

患者安全および医療者安全のための教育

座長: 藤田真幸教授(慶應義塾大学病院医学部)

井上都之准教授(岩手県立医科大学)

Enhancing patient clinical safety through training in the pharmacovigilance management: an educational experience in Central America and the Caribbean

医薬品安全性監視管理の訓練による患者臨床安全の強化: 中央アメリカとカリブ海諸国における教育経験。

Tatiana Cruz González

University of Costa Rica, San José, コスタリカ

Self-assessment of NTS related to medical safety upon graduation of nursing students

看護大学院生の医療安全に関する NTS の自己評価

二口尚美、Misako Kinoshita, Sigenori Sasaki

仙台青葉学院、仙台

40 years of the National Drug Information Center serving Costa Rica's health

国家医薬品情報センターの 40 年間にわたるコスタリカの健康支援

Acosta María Laura, Cruz-González Tatiana, Fernández-Jiménez Alejandra, Hall-Ramírez Victoria, Hidalgo-Rivera Mónica, Kenton-Paniagua Karen, Pereira-Céspedes Alfonso, Rocha-Palma Milania, Villalobos-Rojas Sebastián

Centro Nacional de Información de Medicamentos (CIMED), Instituto de Investigaciones Farmacéuticas (INIFAR), Facultad de Farmacia, Universidad de Costa Rica、コスタリカ

The need for BLS training from the perspective of medical students

医療系学生の視点から見た BLS 講習の必要性について

迫田典子, 大西真裕, 池田尚人

東京医療学院大学

(PD04) e-Health and Healthcare Safety Promotion

e-ヘルスと医療機関の安全推進

座長: 大谷壽一教授 (慶應義塾大学医学部)

Considerations for Selecting, Using and Evaluating Healthcare-based AI in an Unregulated World

規制のない世界でヘルスケアベースの AI を選択、使用、評価するための考察

Hester, Amy

ナース, LLC, アーカンソー州、米国

Application of Artificial Intelligence for Hypotension Prediction During Hemodialysis

血液透析中の低血圧予測への人工知能の応用

Yun Lu, Haoyu Chen, Juiding Yang, Prof. Di Niu

Ark Health Solution Ltd. 上海、中国

(PD05) Novel Simulation-based Education of Medical Crisis Management; Post-Accidental Response Management (PARM)

医療危機管理シミュレーション教育：事故後病変の管理



オルガナイザー： 永山正雄

(MSPO 国際理事, IARMM 評議員。国際医療福祉大学神経内科教授)

2015 年より、医療過誤・医療事故発生後の適切な対応教育の必要性を繰り返し訴えてきました。2016 年、医療危機管理・安全管理の新たな教育として、Post-Accidental Response Management (PARM) 教育を開発した。PARM 教育は、悪いチームワークの動画を活用したシミュレーション教育であり、「迅速性」、「早期対応」、「チーム内の役割分担と連携」、「記録と資料証明」の 4 領域からなる PARM 評価シートにより受講者の対応を測定する。日本でも PARM 教育は浸透しつつある。

本パネルディスカッションでは、この PARM 教育の概念と実践について、シミュレーションを用いた複合領域教育を含めて紹介する。

(パネリスト)

Masao NAGAYAMA (国際医療福祉大学神経内科)

Yukie IGARASHI (国際医療福祉大学熱海病院看護部)

Eisei Hoshiyama (獨協医科大学救急部)

(PD06) Communication Error and the Prevention

医療安全とコミュニケーション



オルガナイザー： 井手口直子

(医療安全心理・行動学会理事、帝京平成大学薬学部コミュニケーション学教授)

患者安全の要はヒューマンエラーの防止にある。そしてヒューマンエラーが起きる仕組みはコミュニケーションエラーに起因するものが多い。ヒューマンエラーの防止には、伝達の省略や誤伝達からくる認知バイアスに気付き、対処するメタ認知を強化することが重要である。今回は医療従事者のメタ認知を高めるための薬剤情報やチーム医療の在り方を多職種で議論する。

薬剤エラー防止のためのチームコミュニケーション

近藤匡慶、高瀬久光 (日本医科大学多摩永山薬剤部)

医療事故を生むコミュニケーション・防ぐコミュニケーション、出来ることと出来ないこと

辰巳陽一 (近畿大学病院 安全管理センター 医療安全対策部)

薬剤に関するヒューマンエラーとコミュニケーション

井手口直子 (帝京平成大学薬学部コミュニケーション学)

(PD07) Community Network of Medication Safety

医薬品適正使用の地域ネットワーク



オルガナイザー：鈴木高弘

(医療安全心理・行動学会理事、横浜薬科大学薬学部)

日本の医療環境は急速に変化しており、特に地域医療において医薬品安全管理の重要性が増しています。このパネルディスカッションでは、異なる立場からの視点を交えながら、日本の地域医療における医薬品安全管理の現状と課題に焦点を当てます。

企画説明

鈴木高弘（横浜薬科大学 薬学部）

中小病院と薬局の連携について（仮題）

樋島学（総合川崎臨港病院 薬剤部）

地域医療支援病院など限られたリソース下での医薬品安全管理の実践と連携など

抗菌薬の適正使用について（仮題）

望月敬浩（静岡県立静岡がんセンターRMQC 室）

抗菌薬の適正使用の促進と、感染症管理の観点から見た医薬品安全など

フォーミュラリーについて（仮題）

鈴木智（一般社団法人TMG本部 薬剤部）

医薬品フォーミュラリーの重要性と、地域のニーズに適応した医薬品提供など

次世代の医薬品安全管理について（仮題）

大山実（株式会社ワイズマン）

IT を活用した医薬品安全管理の現状と課題

(OPG08) Risk Management of Infectious Disease

感染症のリスクマネジメント

座長 河内正治 教授(帝京大学医学部医療安全管理部)

Intranasal Decontamination For the Protection of Patients and Healthcare Workers: Utility of a Novel Device for use in Clinical Settings

患者と医療従事者を守るための経鼻汚染除去：臨床現場における新規デバイスの有用性

Charley Grove, Charley Grove, George Hermann, Michael Drews, Krizia Jurczyk, David Kahane

オタゴ大学、ニュージーランド・シリコンバレーイノベーション、ニュージーランド

Prediction of COVID-19 Occurrence Using CO2 Sensor

CO2 センサーを用いた COVID-19 発生予測について

中山晴雄、松岡千賀子、小玉健太郎、中澤愛紗、太田登志子、伊藤志昂、松瀬厚人、岩渕聡

東邦大学医療センター大橋病院

ポスター示説 (01)

3 月 16 日 B 会場

ポスター討論: 12:30～13:30

(座長) 百賢二, 昭和大学

Victoria Klemm (RheinMain UAS, ドイツ)

(PP01-01)

Improve adherence of health professionals to the use of the surgical safety checklist: opportunities and challenges

外科安全チェックリストの使用に対する医療従事者の厳守改善：機会と挑戦

Amélia Filomena Oliveira Mendes Castilho; Isabel Melo,

Nursing School of Coimbra, ポルトガル

(PP01-02)

Understanding Schizophrenia – A Path to Balance

統合失調症を理解する - バランスへの道

Cândida Loureiro, Paulo Pereira, Jorge Façanha

Nursing School of Coimbra, ポルトガル

(PP01-03)

Enhancing Healthcare Dispute Prevention and Communication Strategies: Comprehensive Training for Professionals in Taiwan

医療紛争予防とコミュニケーション戦略の強化：台湾における専門家のための総合トレーニング

Tzu-Chieh Weng, Ya-Ling Lai, Ya-Wen Tsai, Wen-Hsin Hu, Ya-Ting Ke, Che-Kim Tan,

Hung-Jung Lin, Shih-Chun Ho

Chi-Mei Medical Center, 台湾

(PP01-04)

Improving Safety in Blood Pressure Readings and Analysis

血圧測定と分析における安全の改善

Simran Lakhani, Dr Fariah Khan, Nadia Awan

Univ. Barts and the London, 英国

(PP01-05)

Second Victims in German-speaking Countries: Results of the SeViD-Studies

ドイツ語圏における第二の被害者：SeViD研究の成果

Victoria Klemm, Reinhard Strametz

RheinMain UAS, ドイツ

(PP01-06)

Cultivating Proactive Communication to Manage Unexpected Medical Outcomes: Integrating the Three Stages of Memory Process into Training for Healthcare Professionals

予期せぬ医療結果を管理するための積極的なコミュニケーションの育成：記憶プロセスの3段階を医療従事者のトレーニングに組み込む

Ya-Wen Tsai, Ya-Ling Lai, Wen-Hsin Hu, Ya-Ting Ke, Che-Kim Tan, Hung-Jung Lin, Shih-Chun Ho

Chi-Mei Medical Center, 台湾

(PP01-07)

Literature review on communication skills of cancer peer supporters

がんピアサポーターのコミュニケーション・スキルに関する文献検討

元井好美

兵庫大学看護学、関西医療大学保健看護学部

(PP01-08)

Systematic review: Effective KYT (Kiken Yochi Training) for healthcare personnel

医療従事者に対する効果的なKYT(危険予知訓練)に関する文献研究

Mikiko Kamiya¹⁾ Fujimoto Kozo²⁾

1)Setsunan University, Osaka, 2)Kyoto Tachibana University, Japan

(PP01-09)

Analysis of Motivation for Healthcare Safety in Multiple Small and Medium-Sized Hospitals

中小規模病院における医療安全に対する動機の分析

Kazuhisa Shimmura (EUCALIA Inc.), Manami Sato (EUCALIA Inc.), Ayako Sekiguchi (Kawaguchi Kogyo General Hospital), Sanae Matsumoto (Kanamachi Central Hospital), Keiko Koike (Zenshukai Hospital), 日本

ポスター示説 (02)

3 月 17 日 B 会場

ポスター討論: 12:30～13:30

(座長) 橋本 真由美、福島県立医科大学

A feasibility study: The impact of mental health programs to enhance flood survivors' mental health literacy and coping self-efficacy in Hulu Langat, Selangor and Karak, Pahang

実現可能性研究： セランゴール州 Hulu Langat とパハン州 Karak における洪水被災者のメンタルヘルスリテラシーと対処自己効力感を高めるメンタルヘルスプログラムの影響

Sue Kiat Tye, Nik Muhammad Amirul Adli Nik Mohd Sidek, Aina Izzati Muslan, Han Lin Cheah, Azri Zaini, Azlina Wati Nikmat, Abdul Rahman Ahmad Badayai

Mercy Malaysia、マレーシア

Report on the planning of events at the hospital during Medical Safety Promotion Week: Awards for outstanding medical safety activities

医療安全推進週間における当院でのイベント企画の報告：優れた医療安全活動への表彰

遠藤純男、笹館香穂里

大和徳洲会病院

The Impact of Introducing a Personal Digital Assistant System by Pharmacy Technicians on Dispensing Safety and Task Shifting in the Pharmacy Department

薬剤師による個人デジタル支援システム導入が調剤の安全性と薬剤部のタスクシフトに与える影響について

百賢二, Hidehiro Noda, Hiroshi Shimamura, Katsumi Tanaka

昭和大学薬学部・病院薬剤部

Fostering Positive Team Culture: Implementation and Impact of JOY IN TEAMWORK Caring Message Platform in Healthcare

ポジティブなチーム文化の醸成：医療における JOY IN TEAMWORK ケアリング・メッセージ・プラットフォームの導入と影響

Shih-Chun Ho, Ya-Ling Lai, Shu-Lien Chou, Wan-Ting Hsieh, Hung-Jung Lin, Che-Kim Tan
Chi-Mei Medical Center, 台湾

Adjustment strategies promoting acceptance of the health state - An integrative literature review

健康状態の受容を促進する適応戦略 - 統合的文献レビュー

Cândida Loureiro, Ana Esteves, Andreia Antunes

Nursing School of Coimbra, ポルトガル

The utility of Nursing Activities Score (NAS) in assessing the workload of nurses in Level III Intensive Care Units

レベル III 集中治療室における看護師の業務量評価における看護活動スコア（NAS）の有用性
Amélia Mendes Castilho, Tiago Loureiro,
Nursing School of Coimbra, ポルトガル

A study on the effect of long-term facial massage intervention reducing occupational stress of nurses

顔マッサージ長期介入による看護師の職業性ストレス軽減効果に関する研究
Ohkawa Yuriko, Sakashita Emiko, Nishida Kayo
宮崎大学医学部看護学科

Systematic review: Effective KYT (Kiken Yochi Training) for patients

文献レビュー：患者に対する効果的な KYT
Fujimoto Kozo, Kamiya Mikiko
Kyoto Tachibana University, Kyoto, Japan

The impact of self-endangering work behavior on occupational injuries among Japanese workers in small- and medium-sized businesses during the COVID-19 pandemic

自己を危険にさらす働き方は健康状態に関わらずコロナ禍の日本の中小企業労働者の労災リスクを高める
井上由貴子, 中田光紀, 菊永一輝, 頓所つく実, 田村拓之
産業医科大学 IR 推進センター

Peer Support Management in Cancer Patient Associations

がん患者会におけるピア・サポートマネジメント
元井好美
兵庫大学看護

The importance of anisocoria as an assessment point in ICU management

ICU 管理における診断不一致の重要性
Yuta Kooguchi^{1),3)}, Hisato Ikeda²⁾, Akira Wada²⁾, Shohei Nomoto³⁾,
Ayako Kuriki³⁾
1) Medical intern in Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京
2) Department of Neurosurgery, The center of cerebrovascular disease,
Showa university Koto Toyosu Hospital, 東京
3) Department of Neurology, The center of cerebrovascular disease,

晚餐会

2024 年 3 月 16 日夜

上野公園内の料亭



----- (担当事務局) -----

国際医療リスクマネジメント学会 (IARMM),

医療安全推進機構 (MSPO)

東京都文京区本郷 4-7-12-102

電子メール: manager@iarmm.org

(TEL) +81-3-3817-6770 (FAX) +81-3-6801-6987

(ホームページ) www.iarmm.org/J/ <https://mspo.org/>